

# 水産業分野における集落活動センターへの展開手順



**①遊漁・体験漁業の振興による展開** ⇒ 交流人口の拡大による漁村の活性化  
地域クラスターの形成

**漁業指導所**

- 遊漁・体験漁業の実態調査の実施 (H28.2~6)
  - ・業態、利用料金、利用者数、売上
  - ・規制緩和や基盤整備等へのニーズ
  - ・地域のルール、漁協との関係 など
- 遊漁船事業者との検討の場づくり (H28)

・県内遊漁船事業者数 246事業者(276隻)  
・県内釣筏事業者数 28事業者

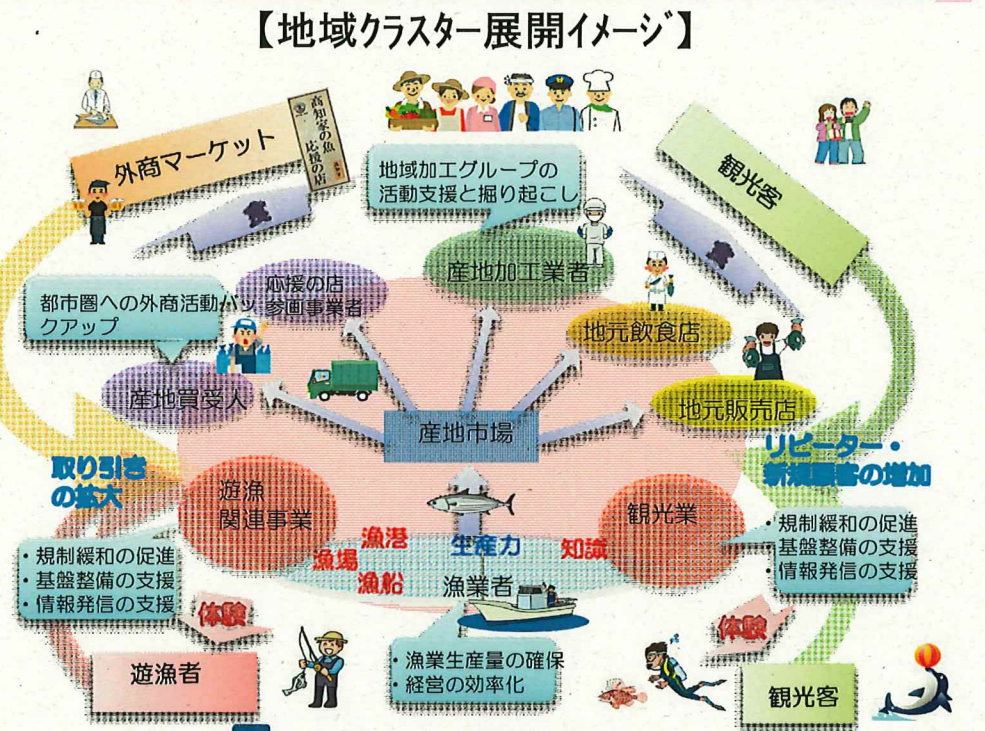
○遊漁振興策の策定 (H28)

- ・対象地域、事業の整理
- ・付加的サービスの整理
- ・支援策の検討(基盤整備、規制緩和、設備投資、安全対策等)
- ・漁協(漁業権者)との調整
- ・遊漁船事業者の組織化

↑

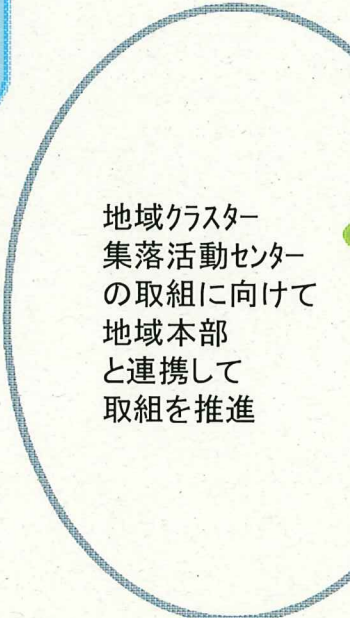
- ・アドバイザー、遊漁船事業者などからの意見

中間取りまとめ (H28夏頃)  
※可能であれば9月補正対応



**【地域本部との情報共有】**

- ・情報共有会議の開催
- 28.4 実態調査中間集約の共有
- 28.6 実態調査結果の共有
- 28,6~8 中間取りまとめにむけた協議



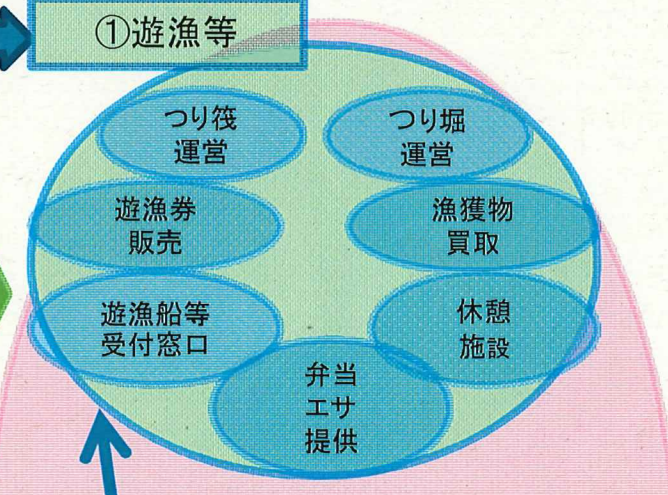
**地域本部・水産振興部**

- 集落活動センター対象地域、事業の絞込み
- 地域活動とのマッチング
- 市町村との情報共有

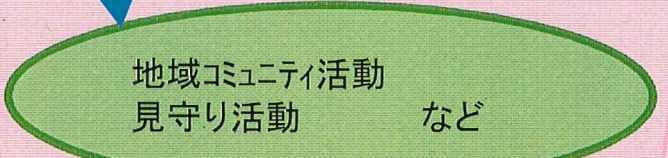
- ・市町村との協働
- ・地域への情報提供

**◆構想・計画づくり**

- 集落活動センター全体の構想・計画づくり
- 水産業分野にかかる計画づくり



地域本部、水産振興部  
市町村、地域住民  
・連携して全体計画策定



**②漁協支所機能の代替による展開**

**漁協**

- 支所業務の見直し(H27~29)  
※赤字支所の業務見直し、水揚集約、燃油タンクの統廃合など
- ・見直し候補支所の選定、業務内容の洗い出し(H28)

**【地域本部との情報共有】**

- ・情報共有会議の開催

○業務内容の調整等(H28~29)

- ・維持すべき支所業務の調整
- ・支所、組合員との協議(H28~)

水産振興部

- ・漁協(漁業権者)との調整
- ・基盤整備、規制緩和の実施

漁協

- ・施設の有効利用
- ・業務委託料の支払い



# 遊魚・体験漁業の振興について

掘り起し

構想づくり

事業実施

## ○遊漁・体験漁業の実態調査の実施

(H28.2~3)

### 【まとめ】

- ・バブル崩壊後、利用客は減少し、固定化の傾向
- ・磯の利用をめぐる漁業者間のルールは定着
- ・大半の事業者は漁協組合員であり、漁協との関係は概ね良好
- ・一部地域・業種を除き、経営は小規模零細
- ・後継者が少なく、新規着業者もわずか
- ・まき餌の規制緩和のニーズ(宿毛地区)
- ・情報発信に対する事業者のニーズが高い
- ・設備投資や資金調達に対する支援のニーズあり

## ○地域本部・市町村との協議(H28.4~5)

- ・各地域の素材の把握、現状と課題の共有
- ・素材を生かした新たな取組取組や地域の取組のバージョンアップに向けた協議

## ○専門家からの意見聴取(H28.5)

- ・漁業だけでなく遊漁にも行政が積極的に関わるべき
- ・高知の遊漁等事業者は情報発信が苦手(ポイントはメディアの活用)
- ・宿泊を伴うような仕掛けと情報発信が必要
- ・釣り初心者の取り込みのためのツールが必要
- ・女性の呼び込みには清潔なトイレが必須

## ◆遊漁振興を図り、交流人口の拡大に向けて

- ・新たな顧客層の開拓
- ・既存の遊漁等事業者の振興
  - 情報発信、設備投資・資金調達への支援
- ・遊漁実態に即した規制緩和

## ○遊漁振興策のとりまとめ(H28)

- ・支援策の検討(規制緩和、基盤整備、設備投資、安全対策等)
- ・漁協(漁業権者)との調整
- ・遊漁等事業者の組織化
- ・対象地域、事業の整理

## ・遊漁船事業者を対象とした支援策の需要調査(~H28.6)

- ・まき餌釣り等の規制緩和(H28.8)
- ・宇佐地区のアサリ資源の回復の取組(継続)

中間取りまとめ(H28.6)

※可能なものから9月補正対応

## 支援策【案】

- 遊漁等事業者の協業化支援
  - ・情報発信、イベント等への補助
- 経営改善等の支援
  - ・アドバイザーによる個別経営体への濃密指導
- 設備投資への支援
  - ・船、筏、生簀等にかかるリース制度
- 資金調達への支援
  - ・設備投資、運転資金に対する低利融資

## ■具体的な取組の推進(展開案)

### ●浦ノ内湾における釣筏を中心とした遊漁・体験漁業

#### 【現状と課題】

- ・浦ノ内湾では8経営体がチヌ釣りを中心とした釣筏を営業(専業6名、養殖業との兼業2名)
- ・高知市から近く、波は穏やかで、屋根やトイレを完備
- ・HP等で情報発信しているのは1経営体のみ
- ・『食』を提供できる施設、宿泊施設、バスを受け入れる駐車場が少ない

#### 【取組概要】

- ・手ぶらで立ち寄っても手軽に釣りができるように施設やレンタル釣り具を整備
- ・筏の新たな利用形態を提案(バーベキュー施設、海上での釣り+飲食など)
- ・養殖の餌やり体験、魚捌き体験などと組み合わせ小学校の体験学習としての利用を促進
- ・HP等を利用した情報発信の仕組みづくり構築、情報内容の充実

#### 【狙い】

- ・最新の釣果情報の発信により、筏でのチヌ釣り客の利用拡大
- ・家族、カップル、観光客など新たな顧客層の呼び込み
- ・カヌー体験施設との連携等による浦ノ内湾一帯を海洋レクリエーションの場として売り込み
- ・将来的には、土佐鯛工房や乙女会と連携した地域のブランド魚を食べることができる場の提供を検討
- ・さらには、宇佐のアサリや、ホエールウォッチング、須崎湾のタイ釣りなど周辺観光との連携を検討

#### 【想定される支援策】

- ・備品整備(レンタル釣り具、救命胴衣、バーベキューセット、製氷機等)
- ・施設整備(漁船等の安全装備、トイレ改修、筏、魚捌き体験場所の整備等)
- ・先進地視察
- ・情報発信のための整備

### ●あしずり港を活用した釣場の開設による周辺観光の活性化

#### 【現状と課題】

- ・あしずり港はサバアジをはじめ、アオリイカやイシダイなど、幅広い魚種が生息しており、釣り場として人気が高い
- ・同港の「海の駅あしずり」はみなとオアシス(四国地方整備局)の拠点施設に位置付け
- ・駐車場は十分な広さがあり、加えてトイレ、レストラン(海の駅あしずり内)が完備
- ・一方、フェリー等の定期的な寄港がなく、全体的に閑散としている

#### 【取組概要】

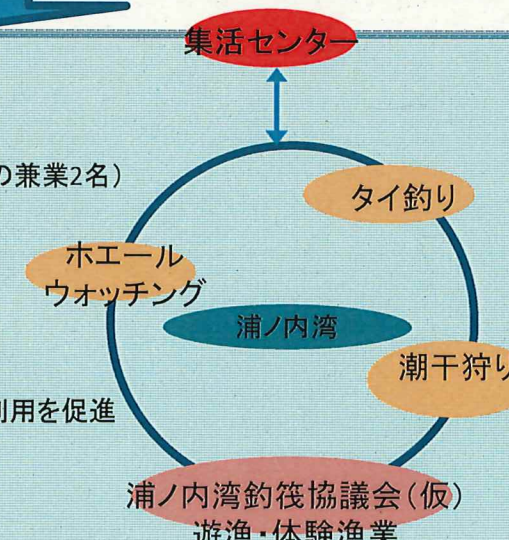
- ・家族連れや観光客が安全かつ手軽に楽しめる釣り場をあしずり港に開設(小割、棧橋、筏、メガフロートを想定)
- ・手ぶらで立ち寄っても釣りができるよう、レンタル釣り具やライフジャケットなどを整備

#### 【狙い】

- ・ジオパークや歴史博覧会、竜串地域の再開発等の取組と連携した情報発信と「海の駅あしずり」のサービス充実による土佐清水市観光の活性化
- ・集落活動センターの開設の構想と合わせた地域ぐるみでの活動との連携を検討

#### 【想定される支援策】

- ・備品整備(レンタル釣り具、救命胴衣等)
- ・施設整備(小割、筏等の整備)



## 事業内容の決定

- ・事業実施主体
- ・関係機関の役割分担
- ・事業計画の策定

意見・提案

アドバイザー

意見・提案

漁業指導所  
地域本部  
市町村

- ・個別取組への支援
- ・新たな取組の掘り起こし
- ・集落活動センターに向けた活動(地域・集落活動とのマッチング)

アドバイザー

- ・個別取組への具体的な助言
- ・新たな取組の掘り起こしへの助言 等